

2016年 春号

通算13号

2016年4月発行

季刊 医療法人社団シャローム 広報誌

シャローム通信



開院 22 周年
病院機能評価に合格しました！



あなたのシャロームは私たちのシャロームです
Your Shalom is Our Shalom

医療法人社団シャロームの理念と使命

【理 念 (表題)】

私たちは聖書の教えに基づき、病める人々とご家族の痛みに寄り添い、心を合わせて、優しく温かい医療に努めます。

【使 命】

在宅医療、緩和医療、救急医療を特性とし、地域のニーズに呼応した多岐にわたる医療を行う。

医療法人社団シャローム

シャローム病院 

【TEL (代表)】 0493-25-2979

【住所】 〒355-0005 埼玉県東松山市大字松山 1496 【ホームページ】 <http://shalorm.or.jp/>

祝

病院機能評価に合格しました!!

シャローム病院は、保険診療が可能な緩和ケア病棟を開設するために、今年の1月に「病院機能評価」を受審し、合格しました。

病院機能評価とは・・・

病院が医療提供を行うために、組織として適切な活動をしているか、第三者機関である公益財団法人日本医療機能評価機構が中立・公平な立場にたち、様々な角度から審査、評価をする取り組みです。病院機能評価に合格した病院は「認定病院」とされ、地域に根ざし、安心・安全、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、常日頃努力している病院であるとされ、全国では約3割の病院が認定されています。

審査そして合格

病院機能評価の審査項目は多岐にわたり、審査当日は3名のサーベイヤーと呼ばれる審査員が、当院をくまなく審査しました。職員全員が非常に緊張しましたが、日々の行い、受審に向けて皆で努力してきたことや改善してきたこと、シャローム病院の想いを全て見ていただき、その結果が合格という形で実を結びました。当院のような規模で、医院から病院になってすぐに受審し、合格するという前例はないと思われ、評価機構の方も感心されていました。

保険診療が可能な緩和ケア病棟開設までラストスパート!!

現在、保険診療が可能な緩和ケア病棟オープンに向けて、職員が一丸となって準備を進めています。

審査当日は、患者さんのご迷惑にならないよう配慮をしていましたが、どのような診察や検査を行っているかを確認するために、サーベイヤーと当院の職員が各現場を回る必要があり、その際に外来の患者さんをお待たせしてしまうような場面もありました。ご迷惑をお掛けし、大変申し訳ございませんでした。

皆様のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。



緩和ケア（ホスピス）病棟運営開始にあたって ～夢と幻が現実になった今～



シャローム病院
院長 鋤柄 稔

1991年に、当地でのホスピスケアを夢見て、小冊子「キリストの医院を始めるにあたって」に記しました。それから25年後の本年、保険診療が可能な緩和ケア（ホスピス）病棟が運営開始となります。

1994年に9ベッドの有床診療所としてスタートして間もなく、あと1床増やして病院にして（20床から病院）、ホスピスケアを保険診療で行いたいと思いました。県の医療整備課に足を運びましたが、比企医療圏は対人口比で病院ベッド数が足りているという理由で、たった1床の増床が許可されることはありませんでした。そのような状況下で、シシリー・ソンドースの「ホスピスは建物ではない、哲学である」という言葉を励みに終末期ケアを行ってまいりました。シシリー・ソンドースは、「ホスピス病棟で行われるケアが一般病棟でも行われてほしい」とも言っております。緩和ケア病棟が立ち上がる今、彼女の言葉の大切さを再び思われます。

病院になって2年間、緩和ケア病棟運営に必要な日本医療機能評価機構の病院機能評価審査に合格するために、職員が一丸となって準備にあたってくれました。準備スタート時点では、審査合格のための到達点を見上げると、はるかに高いもので、不可能ではないかとの思いが何度となく心をよぎりました。小病院で限られた人材でしたが、担当に任じられた職員は、今後これ以上ないであろうと思われる必死の努力をして審査合格に向けた準備にあたってくれました。ですから、今回の出来事は、職員皆さん全てと分かち合うお祝い事であり、心から「おめでとう」、「ありがとう」、「お疲れ様でした」を分かち合うことができます。

もう一つ大事なことは、病院の今日があるのは、開院時からいろいろな意味で支援してくださった方々がいたからでもあります。緩和ケア施設を期待して祈り、献金、献品、ボランティア活動などで支援してくださった多くの方がおりました。そうした方々に心から感謝致します。私どもは、今後も、こうした方々の心を大事にして緩和ケア病棟、ひいては病院、法人としてのシャロームの運営にあたらせていただきます。

聖書の中に「神は、願う前から、あなた方に必要なものをご存知である（マタイ6章）」とあります。当院の理念に、「聖書の教えに基づき・・・」とあります。全ての源は神であることを覚えることも「聖書の教えに基づくこと」であります。

緩和ケアでは“そのままがいいんだよ”をモットーに患者ケアにあたってきました。小病院とはいえ法人職員数は200名近くになります。職員相互間でも、“そのままがいいんだよ、あなたも神に愛されている一人だよ”との思いをもってお互いを認め、受け入れ合って進みたいと思います。

当院が、地域に愛され、地域に仕える病院であり続けることを願います。今後ご支援、お祈り賜れば幸いです。

医療法人社団シャローム
シャローム病院
院長 鋤柄 稔



藤内 伸子 医師

藤内 伸子 ふじうち のぶこ

診療科：乳腺外来（乳腺外科）

趣味：トレッキング

資格等：

日本外科学会 外科専門医・指導医

日本乳癌学会 乳腺専門医

日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医師

埼玉医科大学国際医療センター 乳腺腫瘍科客員准教授



「自己紹介」

2012年4月より社団シャロームへ入職した藤内と申します。シャローム病院は緩和ケアに力を入れている病院ですが、地域の医療機関としての役割も担っています。高血圧症・糖尿病などの慢性疾患、風邪や胃腸炎の方などへ多岐にわたる診療を行っています。その中で私は主に、乳がん検診や乳腺疾患の診療を行う「乳腺外来」を担当しています。

私は埼玉医科大学卒業後、同大学第一外科(旧)へ入局しました。当時、鋤柄院長が助教授(当時名称)として在籍しており、外科手技だけでなく医師としての初期教育も指導してくれました。外科医として修練していく中で、乳がんの手術を担当するようになり、埼玉医科大学国際医療センター乳腺腫瘍科へ転属し、乳がん診療に従事していました。そのような折、鋤柄院長より鋤柄医院からシャローム病院へ拡張する構想を聞きました。自分が医師になった頃に見ていた鋤柄助教授の「患者さんのために」という姿勢は変わっておらず、熱い思いを持ち続ける鋤柄院長に感銘を受けました。微力ながら私にお手伝いできることばあればと異動を決意したのです。今まで乳がん診療に携わってきたので、当院でも乳腺疾患の方を担当することになり、「乳腺外来」ができました。しかし、訪問診療や一般外来など乳腺以外の診療も行いますので、どうぞよろしく申し上げます。

プライベートでは、トレッキングを楽しんでいます。富士山を眺めるのが好きなのですが、そこへ登ってみようと思ったのがきっかけでした。1回目の挑戦は悪天候のため8合目で下山、2回目は登頂できたのですが、頂上はガスの中で展望はありませんでした。ついに3回目の挑戦で、天候も良く満足のいく登頂を果たせました。山登りの体力がついたので、他の山にも行ってみようと思い、それが現在も続いているわけです。頂上を目指すだけでなく、景色のよい所を歩くのも好きです。1回目で登頂できていたら、そこで終了していたと思うので、これは富士山からのギフトです。禍福は自分の考え次第ですし、あとでわかる事もあると思うのです。



槍ヶ岳山頂にて



エベレストをバックにネパールにて